



コロナ感染者国内最多更新！関係会社社員も感染！

昨年以上に列車を走らせるなら、感染から社員を守る対策を講じること！

7月23日、新型コロナウイルスの国内感染者が過去最多を更新し、980人を超える数が報告されました。東京都でも最多の366人報告されています。世界全体では7月22日に1500万人を超え、過去最悪のペースで感染者が増加しており、収束に向けた見通しは立っていません

この状況の中7月17日、新幹線パッセンジャーズサービス（JRCP）の社員（東海道新幹線の車内販売員）が感染していることが判明したと、JR東海のホームページで明らかにされました。また7月24日には、新幹線メンテナンス東海（SMT）の新幹線車内清掃整備員が感染していることが同様に明らかになりました。この方は東京駅での車内清掃整備に従事していました。また、新幹線大井基地の会社掲示では「総合事務所棟を利用した方」が感染したとされています。感染した方の早期回復をお祈りします。緊急事態宣言が5月25日に解除されるも感染の収束どころか、最多の感染者数を記録し、私たちの周辺にも感染者が発生したことで、JR東海社員の感染が現実になりそうな心配がしています。

すでに新幹線地本と新幹線関西地本は、会社対応は感染者が発生したことに関する旅客問合せマニュアルを社員に指示するのみで、社員の感染予防の観点での対策が明らかになっていないことなどから、健康管理と労働環境の整備を求める申し入れをしています。

ところで7月21日JR東海は、東海道新幹線の9月の運行計画について、定期・臨時合わせた1日平均の運転本数を昨年の376本を上回る379本となることを公表しました。お盆時期に実施する「のぞみ12本ダイヤ」も予定されています。列車本数を多くすることでソーシャルディスタンスを確保する狙いがあるといわれています。輸送需要にあわせ、徐々に列車を増発することは必要なことです。ただ、輸送業務全般を担う社員の感染予防対策はどうなっているのでしょうか。旅客のソーシャルディスタンスを確保することは当然に必要な対策ですし、働く社員の健康を守るのも当然必要な対策です。事後的に感染者が使用した設備を消毒するだけでは予防対策とはいえません。

感染の収束がおぼつかない中、また感染経路が判らない感染者も一定数ある中で、昨年同様あるいはそれより多い本数の列車を走らせるのであれば、今でも感染する不安を抱えながら業務を遂行している社員にきちんと対策を示すべきです、

JR東海労はあらためて、全社的な新型コロナウイルス感染予防対策の実施等を求めて申し入れを行います。